

・ 調査の概要

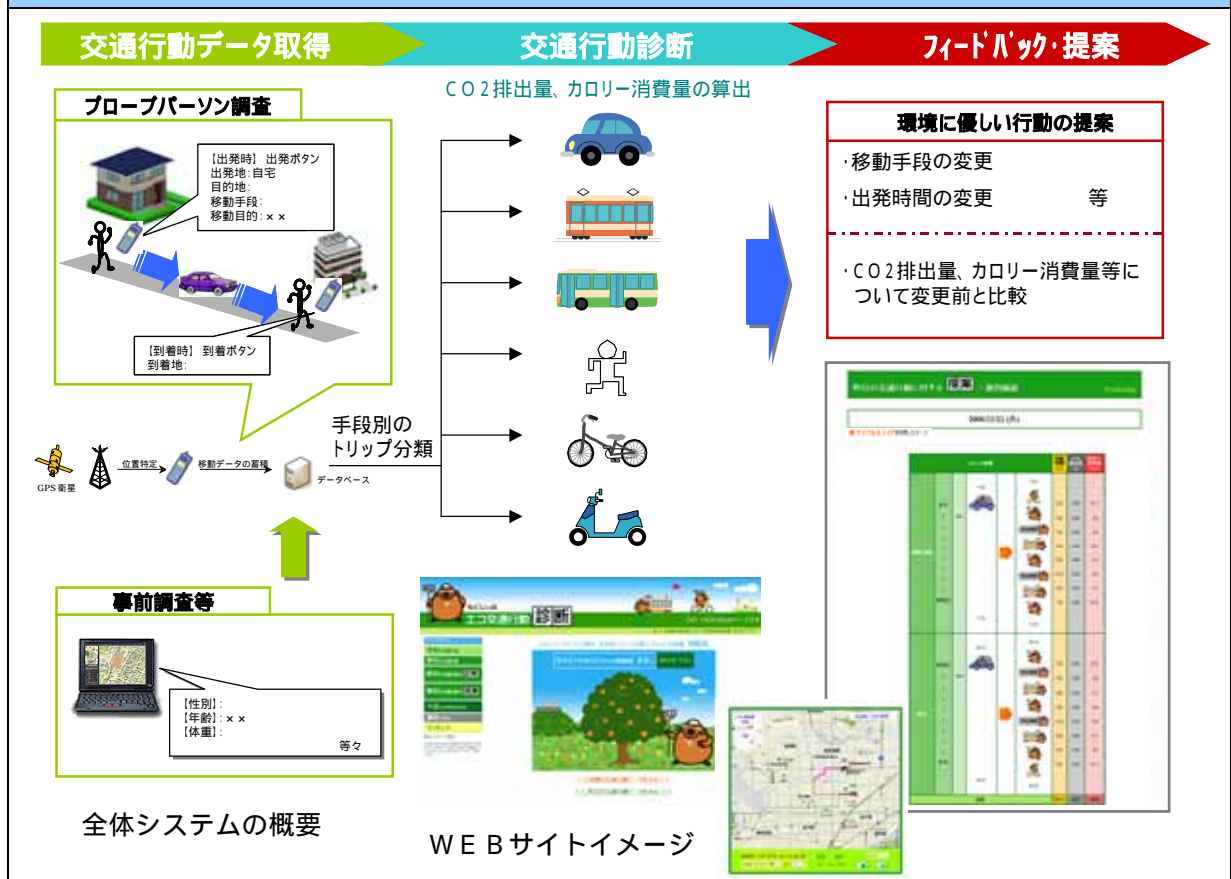
調査名	エコ交通診断
キーワード	TFP、行動変更、CO ₂ 削減
調査地域	松山都市圏
調査期間	平成 18 年 11 月 8 日～11 月 21 日, 平成 18 年 11 月 29 日～12 月 12 日(計 28 日間)
調査人数	63 名
調査主体	国土交通省 四国地方整備局 松山河川国道事務所
調査の特徴 ・PP 利用の効果など	従来、紙ベースで行われてきた「TFP(トラベルフィードバックプログラム)」についてPPシステムにより、高精度・長期のデータ収集を行った。 (CO ₂ 排出量について、トリップ単位ではなく、GPS で取得したドット単位で算定) 実行動をベースとした行動提案を自動的に行う「プローブ型TFPシステム」を構築し、日々、モニターに提示した。

背景と目的

松山都市圏においては、全国の地方都市で見られる傾向同様、生活の高度化・多様化に伴う自動車への過度な依存や、郊外部への市街地の拡大等に伴う自動車交通量の増加等により、幹線道路等各所での渋滞発生とそれに起因する環境負荷の増大など、各種問題が深刻化している状況にある。

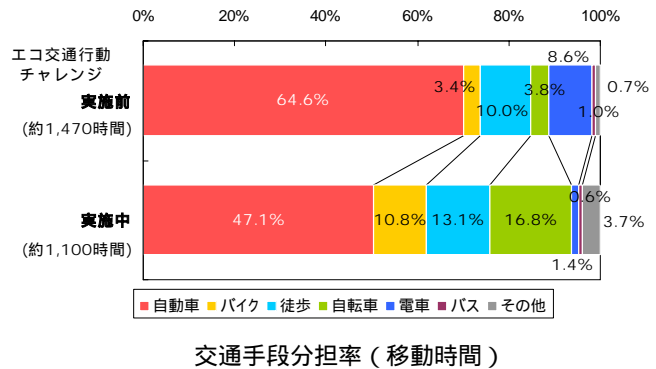
こうした背景の下、本調査では、市民の意識改革(啓発)による渋滞緩和・地球温暖化防止を目指して「TFP(交通行動見直しプログラム)」に着眼し、GPS携帯電話を用いたプローブパーソン調査及び、これと連動し、交通行動の指示・診断・提案の一連の流れをシステムティックに行う「プローブ型TFPシステム」を構築し、詳細かつ長期間のTFPを実施したものである。

調査手法とシステム



調査結果

T F P実施中（エコ交通行動チャレンジ中）においては、自動車の利用割合が減少し、自転車・バイクの利用が大幅に増加。



CO₂排出量が、26%も削減。カロリー消費量も14%増加。

CO₂排出量削減等効果（1人1日あたり）

	<実施前>	<実施中>	変化率
● CO ₂ 排出量	: 1日5.3 kg	→ 3.9 kg	(26%削減)
● カロリー消費量	: 1日154 kcal	→ 173 kcal	(14%増加)
● クルマ利用時間	: 1日 55 分	→ 42 分	(24%削減)
● 総移動時間	: 1日 76 分	→ 75 分	(1%削減)
● クルマのトリップ数	: 1日 2.9 trip	→ 1.9 trip	(34%削減)

エコ交通診断は、クルマ抑制への効果があるかというアンケートでの設問に対し、“効果がある”と回答した方がエコ交通診断実施前後で1割強増加。

モニターの約8割の人が1ヶ月後も“継続できていると思う”と回答。

1ヶ月後の目標行動の継続状況について

エコ交通診断のクルマ抑制への効果について

